

平成 28 年度

A 日程 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで，この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は，1 ページから 14 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し，足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には，受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後，問題冊子・解答用紙とも回収します。

共立女子中学校

1 次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1 将来はカンゴ師になりたいと思う。

2 事業のシュウエキを寄付する。

3 コクモツを育てる。

4 おめでたい席でシユクジを述べる。

5 キヌごし豆腐とうふを食べる。

6 外国人は居留地域が決まっていた。

7 寒い日が続きますので、養生してください。

8 平安時代の宮仕ええがを描いた作品。

② 次の1～4のそれぞれの――線を漢字に直したとき、他とは部首の異なるものをそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---|-----------|---|--------|---|---------|---|----------|
| 1 | ア | ビ境を訪ねる | イ | ビヨウ針の動き | ウ | 歩道キヨウ | エ | 推イを見る | オ | 納ゼイの義務 |
| 2 | ア | カ物列車が走る | イ | チヨ金箱を買う | ウ | チン金を払う | エ | ゴランください | オ | セキ任をとる |
| 3 | ア | ムカシの生き物 | イ | 朝はハやく起きる | ウ | 日がクれる | エ | 空がハれた | オ | 手紙をカク |
| 4 | ア | フク雑な形 | イ | ヤシロで祭りを行う | ウ | おレイをする | エ | 先ゾの墓参り | オ | 鬼は外、フクは内 |

③ 次の文章は、高等学校の先生である「俺」がエッセイに短歌をそえて書いたものです。この文章を読み、後の問いに答えなさい。

夏休みにバスケット部が校内合宿をやったとき、ある男子部員が悩みをかかえているように見えた。練習中、明らかに顔つきが暗い。他の部員たちとも、ほとんど口をきいていないようだ。

「何かあったんなら話を聞けぞ」

「いえ、いいです。なんでもありません」

① そのあつさりした断り方に、なにかが潜んでいる。

(注) 夜練のあと、体育棟のロビーで彼を見かけた。その目にうつすら涙がたまっていた。見過ごすわけにはいかない。

「ちよっとだけ、一緒に散歩でもするか？」

彼はぶすつとした顔のままついてきた。

散歩するといつても、みんながいる体育棟の中だと、他の部員たちに見られてしまう。七時ルールがあるため校舎には入れない(夏休み中、夜七時になると一般校舎の入り口はすべて施錠されてしまうのだ)。

② 俺は、人けのない中庭へ歩いていった。一般棟と管理棟の間の中庭。年に数回だけ作動する噴水。色の剥げかけたベンチ。ぶつきらばうな植え込み。

俺がベンチ前で体育座りをすると、彼は少し離れて、足を投げ出すようにして座った。闇夜だ。夜の校舎の③は、どれも黒い絵の具で塗られたみたいに見える。夜風は、ハムスターの入ったかごのような匂いがする。

ときどき耳元で蚊がうなる。俺は蚊に刺された腕を叩いた。彼も「あつ」とか言いながら、自分の腕や脚を叩いた。

「帰るか？」

「はい」

体育棟へ戻り、照明の下で見ると、二人とも大量に蚊に刺されていた。

「世界一とんでもない散歩だったな」

俺がつぶやくと、^④彼は「仕方ないなあ」という顔になって、ようやく笑った。彼の笑顔を見たのは本当に久しぶりだった。

「おまえ、ひでーなあ。どうしたんだよう？」

そう笑いかけながら他の男子が、かゆみどめを持ってきてくれた。彼はぼそつと「サンキュ」と受け取り、脚にしゅるつと塗った。

「ちゃんと塗れよ」

「いいよ」

「塗れよ」

あとは少年同士のふざけ合いになった。

蚊に^(注2)食われし皮膚^{ひふ}もりあがりたるゆうべ蚊の力量にこころしずけし

内山 晶太^{うちやま しやうた}

(千葉聡『今日の放課後、短歌部へ！』角川学芸出版による)

注1 夜練 Ⅱ 夜におこなう練習

注2 食われし皮膚 Ⅱ 食われた皮膚

1 — 線①「そのあっさりした断り方に、なにかが潜んでいる。」とありますが、このときの「俺」の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 「俺」自身の存在が男子部員の心の負担になっていると思います、苦しんでいる。

イ 「俺」は男子部員から嫌われているのだから、こばまれても仕方ないと思っている。

ウ 男子部員の悩みは「俺」の立ち入ることのできないものだとあきらめている。

エ 男子部員に悩みはなく、「俺」を避けたかっただけなのだとおどろいている。

オ 男子部員は口に出さないものの、本当は悩みがあるのではないかと感じている。

2 — 線②「俺は、人けのない中庭へ歩いていった。」とありますが、これは何のためだと考えられますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 「俺」の知らないバスケット部の事情を知るため

イ 男子部員の涙の原因を聞き出すため

ウ 施錠された校舎に中庭から入るため

エ 男子部員をそつと励ますため

オ 男子部員を励ますのを人に見せないようにするため

3 — ③にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 壁 イ 時計 ウ 窓 エ 階段 オ ポスター

4 — 線④「彼は『仕方ないなあ』という顔になって」とありますが、それは「彼」のどのような気持ちを表現していると考えられますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分を放っておけなかった「俺」のおせっかいをこらえる気持ち

イ 散歩が蚊に大量に刺される結果に終わったことを苦々しく思う気持ち

ウ かゆみに困惑しながらも、「俺」の配慮を受け止める気持ち

エ 自分を強制的に連れ出した「俺」の行為に対して立腹する気持ち

オ 「俺」が自分の話を聞くとしてくれたことをありがたく思う気持ち

5 次の文の中から、このエッセイに合う最後の短歌の気持ちとしてふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 蚊にひどく食われることによって、心にあった苦しみが薄らいでいくような静かな落ち着きを取り戻している。

イ 蚊の命がけの仕事を考えて、自分一人の悩みなどいたしたものではないと気楽な気持ちになっている。

ウ 蚊に食われた皮膚を見て、自分も蚊と共に生きていることを実感し、人生を充実させようとしている。

エ 蚊に食われたことへの怒りが、かゆみが引くと共にしずまり、蚊に対する賞賛の気持ちに変わっている。

オ 蚊の力強さに注目することで、蚊のように小さな存在からも学べることがたくさんあると思っている。

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

私の学生生活の中で、一番心に残る先生は、小学校の一年生から四年生の間、ずっと担任を受け持ってくれたエンドウマメ先生だった。小さくてコロコロと笑う、愉快なオバチャマ先生。

三六五日、毎日日記を書いて担任の先生に提出するという習慣のあった校風のなか、エンドウマメ先生は毎日コメントを返してくれた。コメントの最後には必ず、房の中に豆粒が三つ入った、えんどう豆のイラストが付いていた。

面白い日記を書けたとき、何か良いことをしたときの日記、それらを褒めてくれるときには、そのイラストの豆一粒一粒に顔が付いていて、房にはリボンがかかっていた。

たったそれだけだったが、①特別な気分がいっぱいになって、ほっこりと嬉しかったものだ。

放課後になると当番の班が教室を掃除する。

他のクラスの先生は、きちんと掃除をするご褒美に飴玉をくれるよ、先生もやってよ！と生徒から要望があったときは、「掃除っていうのは、特別なことじゃないのよ。当たり前前の役割を果たすのだから、掃除をした後に特別な飴玉はいらないの」へえ、そっかあ。と②素直に納得することができた。

一週間に一度、漢字テストがあった。そのたび、先生は、こう言うのだ。

「クラス全員が満点だったら、先生が皆を連れてデイズニーランドに行くよ！五回も続けば、皆で海外よ！」

おおー！！と教室中が沸き立ち、皆の眼がメラメラと燃え始める。今思えば、十問とはいえ、クラス全員が満点を取ることなど、確率的には、ほぼ無いに等しい。③それでもエンドウマメ先生は嘘は言っていない。

細かいところまでは思い出せないが、何回続けば何をしよう！というランク分けはもっと細かく設定されており、「百回も続けば宇宙旅行」まで話は及んでいたと思う。皆、百回まではいかなかっただろう、と思いつつ、デイズニーランドぐらいはもしかしたら実現できるかもしれない、と本気で信じていた。

本当に全員満点だったら、どうしよう！

なんて、友人たちと笑いながら、採点を待っていた。

毎度その夢は破れるものの、次も頑張ろう！ と思えた。

ちなみに、我が家では、二回連続で満点をとると、本を一冊買ってもらえるという、比較的实现しやすいルールがあったため、小学校の頃の漢字テストでは毎回、一層気合いが入っていたような気がする。

そういえば、エンドウマメ先生オリジナルの不思議な(注1) 恩賞制度として、「ラベル」というものもあった。(注2) ビデオテープの腹に貼るような至って事務的な三センチ×五センチほどの無地のシールに、賞のタイトルが書かれている。

クラスの中で上位になった生徒が貰える。点が取れた、という数値的なものではなく、「いちばん片付けしたで賞」、とか、「ぞうさんを絞るのがいちばん上手いで賞」とかそんなたぐいの、何とも自尊心をくすぐる、絶妙なポイントの賞だったと思う。

エンドウマメ先生が直筆で書いたというだけで、物質的な価値はこれといって無いのだけれど、今思い返すと、子供に物質的な価値というのは、さほど必要ないのかもしれない。

価値というのは、それが生み出された経緯と、それに対する人の思い入れで十分変わり得るものでもある。

現代の物質的価値観で溢れた(特に都会の)社会の中で、それを子供に、きちんと教えるのは本当に難しい。

もちろん叱られることだって山ほどあったけれど、大切な指針をユーモアたっぷりに教えてくれたエンドウマメ先生の力は、時間が経てば経つほど、その凄さを感じることになる。

二十歳も幾年か超えて、家族に「誕生日、何が欲しい？」と聞かれたとき、迷わず「万年筆」と答えた。

「インクが飛び出したりして面倒だから、買うのならちゃんとしたボールペンの方が良いよ」

と言われたけれど、とにかく欲しいのは万年筆だからね、と念を押した。

結局貰ったのは(注4) 折衷案の(注5) インクカートリッジ式の万年筆だった。

最初は黒いインクが入っていたけれど、使い切ったら(注6) ブルーブラックに替えてみた。エンドウマメ先生が日記にコメントを書く際、手紙を書く際、あらゆる場面ですつと使っていた思い出深い、あの万年筆と、同じ色。

縦書きだと私の幼稚な字も少し綺麗になったような気がして(手書きの日本語はやはり、縦に書いた方が美しいと思う)、なおかつエンドウマメ先生になったような気さえて、胸の中がこそばゆくなる。

万年筆で書くことがとにかく楽しくて、意味もなくいろいろな文章を書きうつしたりもしてみた。

カートリッジはあつというまに消費してしまう。二日で使いきったこともあった。

御礼状おれいじょうを書く葉書はがきも、万年筆で書きやすいような紙質のものを優先的に選ぶようになった。

持ってみて初めて、^⑥こんなにも万年筆に思い入れがあつたのだと気がついた。

今でも思い出す、エンドウマメ先生の居る教室。大人になってから行って見たら、机の小ささに驚いた。

ついでにエンドウマメ先生も小さくなつたような気がした。それだけ、私の背も伸びたんだらう。

先生の弾くオルガン。教室に生徒を集めるための、木の柄えに（注7）欧風おふうの模様えがが描かれたベル。何もかも時間の経たないままそこにあるようで、不思議な感じがした。

そんな校舎も、大幅な改築工事を経て、大分、（注8）様相が変わってしまった。

エンドウマメ先生も定年を迎え、学校には居なくなってしまった。

私の居た教室は、写真と思い出の中だけに在る。

（杏『杏のふむふむ』筑摩書房による）

注1 恩賞制度 Ⅱ よいことやすぐれたことをした人に、品物などをあたえるきまり

注2 ビデオテープ Ⅱ DVDのように、映像や音声を記録するもの

注3 万年筆 Ⅱ ペンじくの中にインクが入っていて、いつでも書けるようになっていてペン

注4 折衷案 Ⅱ 二つ以上の考え方から、それぞれのいいところをとって一つにまとめた考え

注5 インクカートリッジ式 Ⅱ つめかえ式のインクを差しこむ使いやすいタイプ

注6 ブルーブラック Ⅱ インクの色で、濃いあい色

注7 欧風 Ⅱ ヨーロッパ風

注8 様相 Ⅱ ものごとのありさま、ようす

1 — 線①「特別な気分」とありますが、このときの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 毎日日記を書くという面倒な作業を続けることで得られた達成感

イ 大好きなエンドウマメ先生に自分の日記を読んでもらえた幸せ

ウ 教育熱心なエンドウマメ先生の心を少しでも動かせたという自負心

エ 他の生徒には付いていないイラストで自分だけ褒めてもらえた優越感ゆうえつかん

オ エンドウマメ先生らしいやり方で自分を認めてもらえた誇らしさほこり

2 — 線②「素直に納得することができた」とありますが、「私」が納得したことがらとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分たちの使った教室を交代で掃除するのは当然であるということ

イ 他のクラスの先生が掃除のご褒美に飴玉をあげるのはおかしいということ

ウ エンドウマメ先生から飴玉をもらうには、格別の成果が必要になること

エ 掃除するのにご褒美をねだる生徒の考えは恥はずかしいということ

オ 当たり前の領域を広げれば、掃除をする手間も感じられなくなる

3 — 線③「それでもエンドウマメ先生は嘘は言っていない。」とありますが、ここから読みとれるエンドウマメ先生に対する「私」の思いとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア クラスを一致団結いっしさせるため、漢字テストの満点という実現できそうな目標を掲かげて皆を応援おうえんしてくれたエンドウマメ先生に感謝する思い

イ 細かいリンク分けまで設定して毎週約束をしてくれていた先生の期待にこたこたえられなかった自分たちを反省して、エンドウマメ先生をかばう思い

ウ デイズニールンドというご褒美で釣つれば漢字を勉強する生徒が増えると考え、可能性のない嘘をついたエンドウマメ先生を許そうとする思い

エ 漢字テストを頑張ろうとする生徒を信じ、本当に達成できたらご褒美をあげたいと願ねがっていたエンドウマメ先生の気持ちをくむ思い

オ たとえ出まかせだとしても、毎週生徒の気合いを引き出してくれたエンドウマメ先生の真意を、自分だけはさぐろうとする思い

4 —線④「ラベル」とありますが、そこに書かれる賞のタイトルを想像して、ふさわしくないものを次の中から二つ選び、記号で書きなさい。

ア いちばん給食をおいしそうに食べたで賞

イ いちばん漢字を書けたで賞

ウ クラスでいちばん足が速いで賞

エ いちばんメダカを大切にしたらで賞

オ ボール遊びをいちばん楽しめたで賞

5 —線⑤「子供に物質的な価値というのは、さほど必要ないのかもしれない」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 手書きで書かれ、書き手の個性やユーモアが強く表れている物はその人同様大事にするべきだから

イ ご褒美という分かりやすい目標が与えられないと頑張らない子になってしまう心配があるから

ウ 子供にとっては、高価な物をもらうことよりも自分を認めてもらうことの方が嬉しいから

エ 子供の価値観では、家族や友人に自慢できるようなめずらしい物でなければ大切にしないから

オ 子供というのは誕生日プレゼントのように長い間使えて良質の物だけが必要としているから

6 —線⑥「こんなにも万年筆に思い入れがあったのだ」とありますが、その「思い入れ」を具体的に表している一文を文章中から探し、初めと終わりの三字を書きぬきなさい。ただし、句読点やかきかっこなどの記号も字数にふくまれます。

7 エンドウマメ先生の人物像について、この文章から読みとれることとしてふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で書きなさい。

ア 独特のアイデアで生徒の心をひきつけて、学校生活を楽しいものにしてくれたあこがれの先生

イ 日記や掃除など自分なりの信念と流儀を持ち、そのやり方をさりげなく生徒に示してくれた思い出の先生

ウ 小柄だが優しく穏やかで、厳しいことは一切言わずに生徒それぞれの人格を大切に育ててくれた先生

エ 行き当たりばつたりの提案で生徒をふり回してきたが、大人になってから心に染みるようになった先生

オ 一人ひとりの生徒をよく観察し、日記で褒めたりラベルで賞をあげたりしながら愛情を注いでくれた先生

このページに問題はありません。

⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

やっとまぎれもない春がくる。このときを心から待ちわびてきた。原発事故以来、電気に頼らぬ生活とは何かが知りたくて、冷暖房を使わぬ暮らしをしているからだ。

冷え症で、暑さより寒さに弱い。それなのにエアコンもコタツもホットカーペットも電気毛布も処分してしまった。世に寒がりはいくつまでやるのかって？

たぶん、いつまでも。

強がりではない。いやまあそれもゼロとは言い切れないが、そればかりではない。つらくないか、なぜそんなに我慢できるのかと言われると、ちよつと違うのである。

何事もやってみるものだ。①敵を攻略するには、まずは敵を知ること。私はついに見破ったのです。「寒さ」の正体を。

以前にも別の(注1)コラムで紹介したが、部屋が寒いという問題は案外あつさり解決した。昔ながらの「湯たんぽ」が万能暖房器具となったのである。太ももの上に載せ、ひざ掛けで腰から下をくるめば、これはもう持ち運べるプチコタツと認定できる。首や肩を覆うシヨールを巻けばほぼ完璧だ。

だが一つだけ、どうしても解決のつかない難題が残った。「風呂」である。

風呂は最高だ。特に冬のそれは極楽。寒い我が家では特に貴重な熱源となるはずだった。ところが②これが全く逆だったのだ。入るときは、いい。多少のヤセ我慢の暮らしのなかで、熱い湯で心も体もゆるむ瞬間には強烈な幸せがある。問題は、出られなくなることだった。

ぬれた体で寒い脱衣所に出た時の身を切られる瞬間を思うと、幸せも(注2)帳消しの結末に(注3)心がなえる。つい長湯になり湯が冷めてくる↓わかし直す↓長湯↓冷める↓わかし直す↓長湯↓冷める……ああ(注4)無間地獄。

あれほど好きだった風呂が、気づけば苦行の場となっていた。どうしたものかと頭を抱え続けたある日、ハタと気づく。

③の原因は、「寒さ」そのものではないのではないか。「寒さ」と「暖かさ」の差が苦しみを生み出しているのではないか。

思い返せば暖房時代、エアコンをつけていてもコタツから出るのが寒くてイヤで、ずるずると潜り込んでは無理な姿勢で寝てしまふ失敗を繰り返した。それはコタツがあまりにも暖かすぎて、幸せすぎたからだ。風呂も同じではなからうか。

肩まで熱い湯につかる幸せを封じ、浅くてぬるい腰湯にした。上半身が寒いので長袖の下着を着たままという^(注5) 珍妙なスタイルだが、人様に見せるわけでなし、どうということはない。出るときもまた肝心。ほんのり温まった小さな幸せを壊さぬよう、まずは暖かい浴室の中で体を拭く。それから脱衣所へ出て素早くパジャマを着込む。

そう、風呂はもう極楽ではない。だが^(注3)も消えた。そして冬は去った。

こうして^(注4) 大発見でもした気になっていたのだが、調べてみると^(注5) それほどではなかった。この「寒暖差」の^(注3)が、毎年多くの死者を出しているという。

風呂で倒れて救急車を呼ぶ人の多さに困惑した東京消防庁が実態調査を実施。最近の研究では、全国で年間1万7千人が寒暖差による「ヒートショック」に関連して急死している可能性があることがわかった。交通事故による死者の3倍である。

暖房を利かせると、暖かい部屋と寒い脱衣所の温度差が激しくなりジェットコースターのように血圧が^(注6)乱高下する。あげく、^(注7)脳梗塞を起こしたり、熱い風呂の中で失神したりする。日本特有の現象らしい。

住まいと健康の関係を研究する慶応大の伊香賀俊治教授は、暖房に頼る日本の家は体への負担が大きいと指摘している。理想は、どこにいても穏やかに暖かい家。断熱性を高め、日当たりなど自然の恵みを活用しようと提唱する。

北海道伊達市にこの理想を体現した^(注8) モデルハウスがあると知り、行ってみた。

地元で建設会社を営む小松幸雄さんは、厚さ25センチの壁など北の大地で培った高い^(注9) 断熱、蓄熱技術を武器に、太陽の恵みとことん生かした「無暖房住宅」の実現を目指している。完成形ではないというが、厳冬期でも室温は15度以上というからすごい。足を踏み入れた瞬間、^(注6) 不思議な感覚にとらわれた。暖房の暖かさと比べれば明らかに物足りない。なのに実にのびのび動ける。これで十分と割り切ってしまうえば、どこへ移動しても失われるものがないからだ。差がないとはこれほど自由なものか。

考え込んでしまった。豊かさとは何なのだろう。

バブル期に青春時代を送った私は「ワンランク上」ということばに弱かった。人はそこそこの豊かさを手に入れてもなお、差をつけることで更なる豊かさを追求したいのだ。差がなければ豊かさを実感できないのかもしれない。冷暖房だってそう。温度差をつけて、豊かさをかみしめる。で、その差は本当に幸せをもたらしたのか。

私たちは一体何を求めてきたのだろう。

注1 コラム 〓 新聞や雑誌などの短い文章

注2 帳消し 〓 以前の価値や意味が失われること

注3 心がなえる 〓 気持ちがいしほむ

注4 無間地獄 〓 絶え間のない苦しい状態のこと

注5 珍妙 〓 ふつうでなく、おかしいようす

注6 乱高下 〓 短い時間で激しく上がったり下がったりすること

注7 脳梗塞 〓 脳の血管が詰まったりして、血液が流れなくなつ

た部分が働かなくなる病氣

注8 モデルハウス 〓 見本として建てた家

注9 断熱、蓄熱 〓 熱の移動をなくしたり、熱を蓄積したりする

1 線①「敵」とありますが、「敵」の正体はどのようなものですか。文章中から十二字で探し、初めの五字を書きぬきなさい。ただし、句読点やかきかっ
こなどの記号も字数にふくまれます。

2 線②「これが全く逆だったのだ」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 風呂が最高の楽しみではなく、つらい苦行の場になってしまった。

イ 風呂によって電気は節約されず、電気を消費する原因になってしまった。

ウ 我が家が暖かくならないで、風呂に熱を奪^{うば}われるようになってしまった。

エ 家全体が寒いので、風呂がいつまでもたっても暖かくならなかった。

オ 寒い我が家の中で、唯一^{ゆい}暖かい場所は風呂だけになってしまった。

3 ③にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 困惑 イ 寒さ ウ 苦痛 エ 苦行 オ 難題

4 線④「大発見」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 風呂は幸せを感じさせるが、同時に苦しみを生み出していること

イ やはり風呂は最高であると、あらためてしみじみとわかったこと

ウ 風呂は最高で極楽だと思っていたのは間違^{まちが}いであつたということ

エ 風呂の暖かさより、コタツの暖かさの方が心地良^{こころよ}いと感じたこと

オ 風呂から出る時に素早くパジャマを着ないと風邪^{かぜ}をひいてしまうこと

5 —線⑤「それどころではなかった」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分をはじめて発見したと思っていたが、以前から皆に知られていることだった。

イ 自分で大発見でもした気になっていたが、すでに大きな社会問題になっていた。

ウ 大発見でもした気になっていたが、発見したのは自分ではなくてがっかりした。

エ 風呂は最高に楽しいと思っていたが、今では苦しい場所になってしまった。

オ 風呂は苦行の場になっているが、本来は最高に楽しい場であった。

6 —線⑥「不思議な感覚」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 暖房に比べれば明らかに物足りない暖かさで、妙に生ぬるく気持ち悪い感じがすること

イ 暖房に比べれば明らかに物足りなく寒いので、もう少し暖かくしてほしいと感^みじること

ウ 暖房もないのにどういう仕組みでこんなに暖かくなるのかと、想像してしまうこと

エ 家のどこでも気温に差がなく、自由に活動できる温度であると感じること

オ 完成形ではないということだが、完成形はどうなるんだろうと悩^{なや}んでしまうこと

7 次の文の中から、この文章の内容と合っているものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 常に「ワンランク上」の生活を追求しようとすることが大切である。

イ 他人との比^ひ較^{かく}ではなく、自分で十分だと思^{おも}うことが必要である。

ウ 他人と差がないような豊かさを求めることが重要である。

エ 失うものは何もないと考えることが、本当の幸せである。

オ いつでも他の場所へ移れる自由さが、本当の豊かさである。

(問題はこれで終わりです)

